

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 24 日現在

機関番号：34428

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2016

課題番号：24792473

研究課題名(和文)急性心筋梗塞患者のセルフケア能力の獲得を目指した双方向型教育プログラムの開発

研究課題名(英文)Development of the interactive type educational program aiming at acquisition of the ability for self-care of the acute myocardial infarction patients

研究代表者

稲垣 美紀(Inagaki, Miki)

摂南大学・看護学部・准教授

研究者番号：60326288

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度の信頼性と妥当性の検討を行い、心筋梗塞患者のセルフケアに関連する要因を明らかにした。心筋梗塞患者のセルフケアは、「心臓を守る日常生活上のセルフケア」、「習慣的な運動と運動の調整」の2因子で構成され、心臓を守る日常生活上のセルフケア、習慣的運動と運動の調整、配偶者のサポート、家族のサポート、身体的QOL、精神的QOL、BMI、PCI回数の8因子の因果関係が示すモデルが得られた。運動は、身体的と精神的QOLの改善、PCIの減少に影響していた。心臓を守る日常生活上のセルフケアはBMIの改善に影響していたが、身体的QOLは悪化させていた。

研究成果の概要(英文)：This study was to clarify the contents of self-care and the factors related to self-care of myocardial infarction patients. The first investigation was to clarify the content of myocardial infarction patients. The second investigation was to develop the measurement scale of myocardial patients' self-care and to test validity of the measurement scale.

As a result about self-care, I found two subscales, named 'Self-care in the daily life to protect heart' and 'to exercise habitually and coordinate exercise'. Also, I could get appropriate self-care model in myocardial infarction patients. It was composed of eight variables which were Self-care in the daily life to protect heart, to exercise habitually and coordinate exercise, support of the spouse, support of the family, physical quality of life (QOL), mental QOL. According to the model, exercise habitually and coordinate exercise improved physical QOL, mental QOL and the number of times of percutaneous coronary intervention PCI.

研究分野：看護学

キーワード：患者教育 セルフケア 心筋梗塞患者

1. 研究開始当初の背景

心筋梗塞患者は、入院中より退院に向けて再発予防のための生活習慣の是正やストレス対処などのセルフケアを実践していくことが求められる。しかし、セルフケアへの負担感や心筋梗塞の発症に伴う辛い体験は、退院後の社会生活への適応過程において、抑うつ・不安などの心理社会的な問題につながっている。したがって、心筋梗塞患者のセルフケアを支援する看護介入においては、セルフケア行動の達成度のみを評価するのではなく、QOLの向上を目標に、効果的に看護介入することが急務である。

心筋梗塞患者のセルフケアに関する因果モデルを構造化し、さらにそのモデルの構成因子に関連する要因を明らかにすることで、心筋梗塞患者のセルフケアを支援する効果的な看護介入について検討することができる。

2. 研究の目的

心筋梗塞患者が実践しているセルフケアの内容を明らかにし、心筋梗塞患者のセルフケアの内容から信頼性と妥当性のある心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度を作成し、セルフケアに関連する要因を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1)平成 24 年度

外来通院または検査入院の心筋梗塞患者 21 名を対象とし、患者が実践しているセルフケアの内容について、半構成的面接調査を行った。面接内容は、対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成し、セルフケアの内容を表す記述を抽出し、コード化し、カテゴリー化した。

心筋梗塞患者のケアに携わる看護師 15 名を対象とし、看護師が捉えている心筋梗塞患者のセルフケアの内容について、半構成的面接調査を行った。面接内容は、対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成し、セルフケア

の内容を表す記述を抽出し、コード化し、カテゴリー化した。

(2)平成 25 年度

平成 24 年度の調査結果より心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度(案)を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。調査対象は、外来通院又は検査入院の心筋梗塞患者 225 名であった。方法は、無記名自記式質問紙で、外来又は入院中に依頼した。分析は、最尤法プロマックス回転による因子分析を行い、構成概念妥当性を確認し、Cronbach の係数を算出した。

(3)平成 26 年度

外来通院又は検査入院の心筋梗塞患者 225 名を対象とし、作成したセルフケア測定尺度、ソーシャルサポート尺度、一般性セルフエフィカシー尺度、自尊感情尺度、タイプ A 型判定表、健康関連 QOL の包括尺度 SF-36 日本語版を使用した無記名の質問紙調査を行った。また、個人的要因について、年齢、性別、経過期間などを調査した。分析は、セルフケアに関連する要因について、共分散構造分析を行った。個人的要因とセルフケアに関連する要因との関連については、一元配置分散分析を行った。

(4)平成 27・28 年度

平成 25・26 年度の結果より、心筋梗塞患者の患者教育プログラムに使用するツールを開発し、研究協力機関の看護師や医師等の医療者にヒアリング調査を実施し、その調査結果にもとづき、ツールの修正を行った。また、教育ツールの運用管理面についても医療者へのヒアリング調査を行った。

4. 研究成果

(1)平成 24 年度

58 コードが抽出され、[食事管理][水分管理]

理][服薬管理]などの9カテゴリーに分類された。セルフケアの内容は、心筋梗塞患者に特有で多岐に渡り、継続して実施すべき内容であった。看護師が患者のセルフケアを把握し、継続を支援することが重要であることが考えられた。

39コードが抽出され、[食事管理][水分管理][服薬管理]などの10カテゴリーに分類された。看護師が捉えているセルフケアの内容の多くは、患者と同様であり、看護師特有なカテゴリーとして、[体調把握]というセルフケアの動機づけや自己評価につながる内容があった。看護師が動機づけの強化、自己評価や再調整を促す支援の重要性が示唆された。

(2) 平成 25 年度

192名から有効回答(91.0%)を得た。因子分析の結果、心筋梗塞患者のセルフケアは、「心臓を守る日常生活上のセルフケア」、「習慣的な運動と運動の調整」の2因子(28項目)で構成され、構成概念妥当性が得られ、係数は0.9以上で内的整合性が確認された。これらの結果から、本尺度の信頼性と妥当性を確認できた。

(3)平成 26 年度

共分散構造分析を行い、心臓を守る日常生活上のセルフケア、習慣的な運動と運動の調整、配偶者のサポート、家族のサポート、身体的QOL、精神的QOL、BMI、PCI回数の8因子の因果関係が示すモデルが得られた。習慣的な運動と運動の調整は、身体的と精神的QOLの改善、PCIの減少に影響していた。心臓を守る日常生活上のセルフケアはBMIの改善に影響していたが、身体的QOLは悪化させていた。セルフケアモデルに関連する個人的要因は、年齢、性別、経過期間などであった。セルフケアに関連する要因を説明するモデルが得

られ、心臓を守る日常生活を過度に実施することで生活が制限され、QOLの低下が考えられた。QOLの向上には、患者に可能な運動を見極め、運動の継続を支援することが重要であると考えられた。

(4)平成 27・28 年度

平成 25・26 年度の結果より、心筋梗塞患者の患者教育プログラムに使用するツールとして、web を活用した教育ツールを開発した。研究協力機関の看護師や医師等の医療者へのヒアリング調査より、教育内容が患者に理解しやすく、実際の臨床で活用可能であるツールであるかを検討し、ツールの内容の追加や修正を行った。また、教育ツールの運用管理面についての医療者へのヒアリング調査の結果を検討し、管理上の修正を行った。その結果、患者にとって理解しやすい教育内容が追加され、また患者が利用しやすいツールが開発できた。また、ツールの運用管理面についても精錬することができ、患者のセルフケアについて患者と医療者が双方向での情報交換が可能となり、セルフケアの支援に有効なツールとなると考える。

今後は、本ツールを実際に活用し、その活用状況の調査および分析結果をもとにツールのさらなる修正や追加、および運用管理面の再検討を行うことで、ツールの再精錬を行う必要があると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

稲垣美紀, 高見沢恵美子: 心筋梗塞患者のセルフケアの内容. 梅花女子大学看護保健学部紀要, 6, 2016, 1-9.
<https://baika.repo.nii.ac.jp>

[学会発表](計4件)

稲垣美紀, 高見沢恵美子, 戸田美和子: 心筋梗塞患者のセルフケア測定尺度の信頼性・妥当性の検討. 第35回日本看護科学

学会学術集会 . 2015.12.6, 広島.

稲垣美紀, 高見沢恵美子, 戸田美和子 : 心
筋梗塞患者のセルフケアに関連する要因 .

第 12 回日本循環器看護学会学術集会 .

2015.10.17, 東京.

稲垣美紀, 高見沢恵美子 : 看護師が捉え
ている心筋梗塞患者のセルフケアの内
容. 2013 第 33 回日本看護科学学会学術集
会 2013.12.6, 大阪.

稲垣美紀, 高見沢恵美子 : 心筋梗塞患者
が実践しているセルフケアの内容. 第 33
回日本看護科学学会学術集会, 2013.12.6,
大阪.

〔その他〕

心筋梗塞患者のセルフケアをサポートする
web を活用したツール

<http://www.mi-selfcare.com>

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

稲垣 美紀 (Miki Inagaki)
摂南大学・看護学部・准教授
研究者番号 : 60326288

(2) 研究協力者

戸田 美和子 (Miwako Toda)
倉敷中央病院・看護部・重症患者専門看護師